

第14回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成25年12月19日(木)10:00～11:30

項目	意見	内容	対応
＜上庄川水系河川整備計画(案)について＞			
治水	河口部の土砂動態について	今回の検証では、河口部に堆積している土砂は出水時には掃流されることが示されたが、河床低下の懸念はないか。	河口部の土砂動態については、他の河川を含め、必要に応じて検討していきたい。 上庄川については、これまでの実績から、河口部において河床低下が進行するとは考えにくいですが、今後も、土砂動態について注視していくこととしている。
		今後、気象現象の変化により出水が多発すると、河口部の堆積土砂が海域に流出し、赤潮のリスクが高まる。そのため、水産関係等の部局との情報共有が必要である。	今後、整備計画の内容について、県庁内の環境、農林水産等の関係部局と協議・調整を行っていくこととしているが、河口部の土砂動態に関する検討についてもあわせて情報提供することとしている。
		河口部の土砂動態については、住民説明会でも意見があったということであるが、今回の検証の結果を住民へ説明されているか。また、住民説明会において、河口部の土砂動態以外にどのような意見があったか。	今回の土砂動態に関する検証結果については、今後、実施設計を行っていく段階で、具体的な改修内容とあわせて住民へ説明することとしている。 住民説明会での主な意見としては、河口部の土砂動態についての意見と、近年洪水被害が発生している国道160号から泉大橋周辺の整備を早急に実施して欲しいという意見であった。
改修方法について		計画規模の年超過確率1/10について、どのように評価しているか。	河川整備基本方針では長期的な目標として年超過確率1/50としているが、沿川の立地状況等も考慮しながら、早急に被害を軽減できるように、河道改修を1/10規模で実施することとしている。 また、長期的には、上流部の河道改修や洪水調節施設の整備により、1/50規模の洪水に対応していきたいと考えている。
		河道掘削区間において、取水に影響が出ることはないか。	河道掘削区間において、掘削により取水に影響が出ることはない。

項目	意見	内容	対応
環境	水辺環境について	環境への配慮として、河川の連続性の確保や、拡幅は片岸のみとするといった対策を挙げているが、他の河川での成功例も参考にするべきである。	環境への配慮としては、他の河川の成功例も参考に対応していきたい。
		環境への配慮について、実施後の事後評価は行っているか。	環境への配慮については、具体的な評価等は実施できていないのが現状であるが、過去に実施した例や実績を参考にして実施しているところである。
		オオクチバス等の外来種の生息状況について調査を行っているか。また、外来種への対策は考えているか。	平成19年度に現地調査を行った結果、オオクチバス等の生息が確認されている。外来種への対応については、環境部局等と協議しながら検討していきたい。
その他	地域住民との連携について	河川堤防除草を地域の住民と協力して実施していくということであるが、作業には危険が伴うのではないか。	県では、報償草刈制度により、河川堤防草刈の全体面積の約9割弱を地域住民に協力していただいている。また、実施にあたっては、県で保険に加入している。
	河川情報について	大雨時は、インターネットで情報を収集することが多いので、ウェブカメラの設置も積極的に検討して欲しい。	ウェブカメラについては、今後、必要に応じて設置を検討していくこととしている。
		高齢者はインターネットで降雨や河川水位の情報を得ることは困難であると考えますが、どのようにして対応していくのか。	住民への情報提供の手法については、市町村が避難勧告を発令する判断材料として、气象台と協議しながら土砂災害警戒情報を発令しているところであるが、今後も、そのような情報伝達が確実に行われるように市町村と連携を図っていきたい。